

H30年度自己評価結果公表シート

認定こども園 新光明池幼稚園

1. 本園の教育目標

幼児の発達や学びの連続性を踏まえ、幼児が多様な経験を一つ一つ重ねていくこと、又五感を通して「自分で体験し感じる」教育を重視している。園生活の中で教員との信頼関係を育て外へのかかわりを広げ、遊びを通して集中力、持続力、忍耐力や豊かな人間関係、知的好奇心や小学校の教科教育の土台となる学びの芽を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・認定こども園として学年間の保育内容の連携を検討する。
- ・教育を軸に、養護面の充実を図る
- ・新園舎及び建替えが終了し、新しい環境の中で、子どもたちの保育及び生活環境が安全で、更に充実したものとなるよう検討する。
- ・支援を要する子どもに対しての新たな体制を検討する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育課程の編成・実施に関して、	教職員間で重点目標を明確化し、研修を重ねていく
学年間の連携について	<ul style="list-style-type: none">・(学年間の関わりについて) 縦割り、横割りの活動を増やし、5学年の子ども達が関係を深めあう環境づくりに努めている。今年度は、1歳児と2歳児、4歳児と0, 1, 2歳児、3歳児と0歳児の交流に力を入れた。5歳児は引き続き最高学年として小さい子ども達の良いモデル役となるよう機会を持った。・(分断されている保育から連携へ) (年少～年長) 各学年の保育は充実してきているが、余裕がなく学年ごとで分断しがちである。それぞれの年齢の発達に沿う保育を展開するためにも、年少から年長への繋がりを考え保育を行った。(0歳～2歳) 認定子ども園に移行して4年目であるため、各々の学年の保育の確立の段階に力を入れた

<p>子育て支援の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の委託事業として日曜・祝日保育を実施している。 ・地域の子どもたちのために園庭開放、育児相談、行事を実施しているがそれぞれの支援の充実を数年かけて行う予定である。
<p>教職員の専門性と質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家による園内研修と共に、園外研修にも積極的に参加しているが、全体でいえばまだ不十分な状況である。 ・大私幼のプロジェクトチームに主任を派遣し、他園教員と共同研修を行っている。 ・学年間での園内研修を定期的に行い、保育者の保育力向上に繋げている。 ・他園の公開保育や行事見学を積極的に行い、自園を振り返る良い機会となっている。
<p>保護者への情報発信</p>	<p>保護者の要望には誠実に対応し、園の方針を理解して頂きながら対応する。園内で教員たちが行っている保育をどのように家庭に伝えていくか検討をすすめている。園内スペースでの掲示の工夫、わかりやすい配布物の工夫などを行う。本年度は、各学年保育の連携について発信を多く行った。</p>
<p>安全への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園独自の防災マニュアルを作成し、避難訓練を毎月一回実施している。 ・低年齢児に合わせた園内施設の検討を行う。 ・職員研修では、バス運行や交通安全研修など行い、安全に対する意識の向上に努めている。 ・子ども達には、通常の防災訓練や交通安全指導に加え、消防署見学などの経験を準備し、園外保育での安全意識を通して、自ら安全への配慮が出来るようになることを目標として保育を行っている。 ・怪我、感染症、衛生面では常勤の看護師がデーターにて実情を把握し、密に教職員と連携を取り対応している。
<p>地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和泉市保健センター、堺市保健センターと連携を取り、支援の必要な子ども達に対して定期的に話し合いを持っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流は意識して保育に取り入れている（小学校訪問、和泉郵便局、老人ホーム（サニーヴィラ、光明荘）、泉北高速鉄道、自然の森、人形劇団、動物村、演奏家、陶芸家、その他NPO、クリーンセンターフェスティバル参加等）地域の方々との交流は、当園では重要な位置づけとなっている。
--	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
概ね達成できた	<p>年間の重点目標を柱に、保育環境の整理を始めた。そして、教員間の保育内容に関する知識の統一を可能な限り行えるよう、園内研修を重ねた。「園が大切にしている子ども達の育ち」は、折に触れ保護者へ工夫し伝えているため、家庭の園への理解は進んでいる。</p> <p>各講師や地域の方々、研究機関との連携を重視することで地域の中の園の在り方を常に確認できており、それを密に教職員に伝えることで、保育者の専門性の向上及び質の維持をはかることができている。今後は、経験の浅い教員研修の充実、フォローアップ体制の強化、及び、更なる安全面の強化が期待される。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・H28, 29年度は園舎建替えを予定しているため、時期によって子どもたちの活動場が変わる可能性がある。それに伴い柔軟な安全管理を行っていきたいと考えている。
教育環境・活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園に移行する中で教育・保育要領についての理解が全教員に浸透するよう研修を重ねる必要がある。 ・それぞれの保育は充実していきているがまだまだ連携が弱い。数年かけて連携についての意識を高めていく予定である。 ・新園舎になるにあたり、各保育室環境や園庭環境の充実が必要となる。数年かけて充実させ

	ていきたい。
保護者への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの育ち、集団での学びや、発達を如何にわかりやすく周知するか引き続き検討を進める ・集団生活の重要性を強くアピールしていきたい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。